先輩に続け

チャンスをつかむ準備をする！

大阪大学 大学院歯学研究科 口腔細菌学教室 講師
住友 倫子（すみとも ともこ）

私は平成17年3月に大学院工学研究科物質材料工学博士後期課程を修了後、ソシオテクノサイエンス研究部 教務補佐員を経て、平成19年から大阪大学大学院歯学研究科口腔細菌学教室で勤務しています。

在学中は主に環境微生物の制御について学び、大学院修了後もこの分野での研究を続けていきたいと考えていました。しかし、学位は取得したけれども思うような就職先は見つかりませんでした。恩師のご厚意で所属研究室の教務補佐員として採用していただき、なんとか研究を続けることができましたが、先が見えない不安に押しつぶされそうになっていたことを覚えています。とにかく今できることをやるしかない！と日々研究に没頭していたときに、大阪大学で教員として研究や教育に携わるチャンスが舞い込んできました。当初は研究分野が大きくかわることや生まれ育った徳島を離れることに不安がありましたが、「博士号はパスポートと同じ。それを活用して外にでないとダメ！」という恩師の言葉に背中をおされ、故郷をあとにしました。

新たな地での出会い

工学部出身の私にとって、歯学部で目や耳にする全ての言葉が暗号のようでした。着任当初は、教科書の歯科用語にルビをふり、深夜まで猛勉強をして教壇に立ったことを記憶しています。現在は他学部出身であることは私の強みだと考え、歯科領域にとらわれない広い視野で講義や実習を行うことを心がけています。大阪大学に着任して10年を迎えましたが、学部時代に講義や実習を担当した学生が「研究は住友先生と一緒にしたい！」と大学院に進学し、同じゴールを目指して研究を進めてくれることに、教育者としての喜びも感じています。

研究面では、全く異なる分野の研究を1からスタートさせることに不安を感じていましたが、最高の設備が整った環境と周りの方のサポートにより、なんとか自分のライフワークとなる研究を見つけることができたと感じています。さらなるステップアップを目指す私に、今の上司がかけてくれる言葉も「然るべきときのために、準備せよ！」です。

学生のみなさんへ

よくチャンスをつかむために、99％の準備と1％の幸運が必要であると言われます。大学を卒業して12年が経つ私もいまだに手探りですが、5年後、10年後の自分を想像して、今やるべきことを粛々と継続して進めることが準備につながると信じています。これまでとこれからの出会いを大切に、チャンスを生かして、さまざまな分野で活躍していただきたいと思います。

学生実習での風景

研究室のメンバーと

徳大生大活躍！［取材］

人命救助で命の大切さを感じる

工学部 光応用工学科 4年
阿比子 勇気（あびこ ゆうき）

本年2月5日の午後、小雨の中、阿比子さんたちは常三島キャンパス「助任の丘」の前で、アルバイト先の社員と鳴門教育大生でチラシの配布をしていました。

そこへ老婦人が血相を変えてかけてきました。

「川で人が溺れている」

3人が駆けつけると助任川で男性が溺れそうになりもがいていました。川はコンクリートの堤防で、飛び込んでも上がることは困難です。

阿比子さんはとっさに、雨に濡れないようにチラシを入れていたビニール袋を浮き輪の代わりに使うことを思いつきました。

社員と2人で空気を入れて即席の風船を。その間にもう1人が119番へ連絡。

社員の袋はうまく届きませんでしたが、阿比子さんのは男性の近くに落ちて、うまくつかまることができました。

真冬の冷たい水の中で、男性は震えながら必死にビニール袋につかまって浮いていました。

幸い救急車が短時間で到着し、男性は救出されました。

阿比子さんは離れたところからその様子を見ながら、

「救急車を見てから怖くなり、助かってほしい、もし間に合わなかったらどうしよう、などと思い、あんなにドキドキしたことはありませんでした」

後日、徳島県警で表彰された時、男性は救助されて市内の病院に運ばれたが、命に別状はなかったと聞いて、

「本当に良かったと思いました。思い起こすと、本当に命の重さを感じた出来事でした。こんなことは再びあってほしくないですが、もしあったら勇気を出して救助したいと思います」

と決意を語ってくれました。